



世界平和への近道は、私
が世界から尊敬される日本
になることだと考えている。
最近の国内世情をみると、耐
震偽造問題をはじめ、世界に

長期間にわたる米ソの冷戦状態が終わり世界の平和も大きく前進するかにみえた直



”世界の平和は金沢から“
世界連邦運動協会 副会長に就任して 宮西 實

後から、世界の各地で民族間の抗争や宗教戦争がはじまり、そして近年に至ってはテロとの戦いで世界の平和は大きく脅かされている。人類は戦争の歴史といわれるよう、真の平和はまだ遠い状況にある

世界から尊敬される日本に

(講話)

世界連邦運動協会石川県連合会会長 杉山栄太郎

誇る国民皆保険制度さえ崩壊を失墜しかねない事態が続出している。後期高齢者医療制度は政府の説明が不十分なのであつて、本当は正しい考え方であると思つてゐる。保険制度は、病気を早く治すと医者が儲からない仕組みになつていて。だから保険制度は高齢者になつたら一層健康に留意すべしという意も含んでいる。

日本は織田、豊臣、徳川と時代が動いても、民百姓は政治や武闘に関係しなかつた。諸外国のように種族間の戦いというものがなかつたからだ。日露戦争の勝利は、東郷平八郎や大山巖元帥らの功績もあるが、日英同盟がロシアを牽制し大成果をもたらした。そ

のである。現状のままでは国と地方の借金は一千兆円にも上るといわれる。老後をいかに安心して過ごせるか。地方に新規産業を立ち上げ、親子家族が身近に向き合つて暮らしていくける環境を形成することである。それが最大の福祉政策だと思う。中国には五千年的歴史があるが、今日でも社会保険制度はない。

こには卑怯なことをしない、嘘をつかない、人の真似をしない、使命感とやりやりのこころを重視するなどといつたいわゆる「武士道」精神があつた。茶の湯、華道、和歌、俳句、弓道、柔剣道などにみるよう文化・体育両面にそれぞれ「道」を求めてきたのである。それらは日本民族の精神的根幹をなしていた。

使命感と思いやりの精神

習熟した国民による民主主義を

と思う。こんななかで世界平和を希求する世界連邦運動の一層の拡大強化が望まれるところである。言うまでもなく平和への道は、民族や宗教の違いを超えて、人権の尊重とやりやりの精神を大きく前進させることにあるとと思う。わが国は戦後六十年余年平和憲法のもとに平和を維持し、かつ国内外に平和の大切さを訴えつづけてき

た。しかし近年、国内で平和ボケの風潮が憂慮されている。今こそ一人ひとりが世界連邦運動の実践を通して地域に影響力を発揮しなければならない時と思う。二〇〇九年の第28回世界連邦日本大会が金沢で開催されるのを機に世界の平和は金沢からと大会を盛り上げ、世界連邦運動推進の大きなチャンスとしたいものである。

株式会社 石野製作所
取締役会長 石野 邑一
本社 〒九二二・八〇二五
TEL 〇七六二・四一七一八五
FAX 〇七六二・四一七五五
松任工場 白山市源兵島町一〇〇六
開発センター 白山市八束穂三丁目五
十八年前、ドイツ・ベルリンの壁は何故破れたか。情報が国境を越えて把握できるようになり、価値判断が正確迅速にできるようになつたからだ。民主主義こそ最高の政治形態なのである。しかしそれを実現するには、国民の政治

に対する習熟度を高めなければ機能しない。日本は人口が大都市圏を除くと毎年三、四%位ずつ減っていく。国力が弱つてくるから、外国人労働力の導入が必要になつてくる。また食料自給率は実質一〇%ということだから、他国との相互依存関係は強まらざるを得ない。半世紀にわたり安定していった世界の石油文明は、新興大国の需要激増もあって原油価格高騰が続く。化石燃料の大量消費は、地球環境保護上からも憂慮すべき事態に至つている。そんな時、日本人は本来の伝統的文化の特性を取り戻さなければならない。欧米の使い捨て文化ではなく、省資源で最大の喜びを感じる文化、正直、まじめ、物を大事に使い切る精神に自信を得ることである。万機公論に決すべしというが、日本人は決着を急ぎすぎる面がある。ハンドルの遊びのように、柔軟な思考もまた不可欠である。意のあるところを汲んでいた

暑中お見舞
申し上げます

（文責在記者）